

最高のキャストを得て、ついに珠玉の名作が完全舞台化されます。

『精霊流し』は、たった一回、昭和55年（80年）に小劇場で公演されました。「亜也子」「お狭」「黒い花びら」とはまったく違った逸き通った劇世界です。それからは「この作品は取っておきたい」との願いもあって、今日までまったく公開されなかった幻の名作です。

へ劇評——80年読売新聞

（前略）登場人物は女二人。旧盆8月15日の九州・松浦の古びた旅館が舞台である。自殺未遂でこの旅館に収容された女と、旅館のおばばの間で、それぞれの思いをこめたモノローグすれすれの会話が交わされる。

女は東京で妻子ある男と恋して妊娠し、死に場所を求めて故郷の松浦に戻ってきた。おばばはおばばで、終戦の日の8月15日、大陸に出征している夫をよそに、不義の子を死なせた思い出に生きています。おばばは「生きとせえすればなんとかなるけんて、人なあ、女ごはなあ」と言い、女のふるさととは「生まれてきたとこや、嫁いだとこや、子供ば生んだとこや、死ぬとこや」と言う。待ち、流れる女は、ただただ強い。

この女二人の松浦（釜辺の民衆と土着性）に、岡部氏の思いがからむ。精霊流しの日を終戦の日と決めたことは「粹（いき）」「酷」だと思ひ……。すべて鎮魂する日が、またすべてをよみがえらせる日でもあるからだ。

会場案内

東京芸術劇場
小ホール2
☎03-5391-2111

公演スケジュール

	14:00	19:00
8/14 (金)		●
8/15 (土)	●	●
8/16 (日)	●	

(開場は30分前)



土田 ユミ

(青年座)

- 中学生日記
- タンジー
- 地の乳房
- きらめく星座
- 亜也子



入江 杏子

(劇団民芸)

- アンネの日記
- セールスマンの死
- ラブソングがきこえる
- 力道山
- 闇市愚連隊

劇団「空間演技」第44回公演

芸術祭参加予定

『風の墓』作・演出／岡部 耕大

男は、戦争から帰ってきた。戦地で罪のない人を傷つけた男は、お遍路さんとなって、ふるさとの初恋の人に逢うべく旅立った。女は、幸せに生きていた。一人息子は高校の剣道部だった。時は昭和三十七年、六十年安保も過ぎ、アメリカンポップスが日本中を席卷していた。

夏の盛り、男と女は出逢った……………。

再演をの圧倒的声に、今秋お応えいたします。



- 出演
- 鴨川 てんし
 - 加藤 繁木
 - 矢野 晴彦
 - 佐藤 克之
 - 齊藤 省司
 - 三上 伸行
 - 小嶋 章
 - 服部 博行
 - 小沢 俊明
 - 増山 浩一
 - 大出 友子
 - 矢丸 純子
 - 伊藤 幸恵
 - 大山 やえみ
- 他

下北沢本多劇場 1992年10月6日(火)～10日(土)